〔大正十一年五月二十二日第三種郵便物認可〕 昭和十三年三月二十三日 磐城新聞 〔土曜日〕 第四千二百七十九號 〔一〕

夕刊 磐城新聞 三月二十二日發行
（日曜祭日翌日休刊）
定價 一ヶ月 [illegible] 廣告料 [illegible] 發行所 磐城新聞社

輝かしき平消防組 沿革

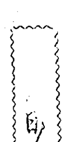
一

燦たる功績金[illegible]二十餘條を繼す平消防組の榮光を讃美する人々は一面この輝しい歴史を飾る緑川清造、同佐伯、高田淸一郎・堀籠正四殉職者の悲壯な功勞を沒してはならない。次に同組沿革の概略を語る――（福島縣消防沿革史抄）

先づ、弘化年間（1,844―1,847）當時（或はそれ以前より）大目附、小目附（此の小目附を火事目附とも云ふ）の行政廳があり、火の番所は小目附に屬して居、此の火の番所と云ふのは三ヶ所あつて、夫々一名の士分が附屬し、それに若黨一名、小者一名が配置されてあつた、而して火の番所は常備的性質を有するもので暮六つの鐘がなれば士分は火事裝束に身を固め、拍子木を持てる小者を先頭に、高張を持てる若黨隨へて城中を一巡し、更に丁目の木戸まで巡視する。他の二組も亦同樣に二丁目、或は三丁目の木戸まで各受持區域を巡視するのであつた。當時町方は三丁目までであつた。弘化年間より戊辰までの火の番所諸士分は、百名以上の士分で當つたは有賀善左エ門、淸水九左エ門、加茂下文左エ門の三名であつた。若しそれ出火の際は馬上に跨り、馬提灯を携帶し、陣笠を冠りて之が取締の任に當つたと云ふ。就て一つの物語がある。元來馬は火が嫌いで火を恐れる惡癖がある、從つて火事目附の乘馬は常に火に對する訓練が必要である、その一例として毎年七月の盆祭三日間は、町内の兩側に松割木數尺を積み重ね一齊に火を焚き、恰も一面火の海と化せしめる風習がある。此の時に、火事場裝束の乘馬隊は、火の眞只中を數回往復して馬を馴したものであるが、その光景實に壯觀を極めたものであつたと云ふ。之は單に馬を訓練すると云ふ意味以外に、火の變風に對する一種の警戒でもあつた事と思ふ。然し此の慣習は今尚古例として殘されてゐるが、寧ろ名物として知られてゐる。今は消防組員の警備に屬してゐる

春の村　飯田雪間

路の邊にすみれは咲かず冷えにけり
さみしらに野に凧揚ぐる子供かな
春の日や學生二人去りゆけり
芹つみし童女去りしや春の風
田を返すをみなに遠き湯のけむり
白梅やはるかに男女群れ居たり
春風や男女のすがた霞みつゝ
戀欲しき若者たちは春草
榮、留守居をするや春の村



ゴム長靴、とツぷりと埋つてまふ。彼岸だとふ、大雪は新年にな珍しい。

いで湯　飯岡みり

○山と山せまれるあひだ無雑作に長者が谷津のいで湯建ちをり
○四方山にとりかこまれしこのいで湯のそけきけはひ雨やいたれる
○出澤の底ひの淸水ひそ〳〵とかけ通して桶にあふるゝ
○名はしらぬ花にあかるし冬田ごし湯の松山御野のあたり
○なが〳〵と横になりつゝ語りふ入のしたしさ[illegible]
○うつし身の純さ裸形男女[illegible]じる浴處

御燈へ　磐女校友會誌かゞみ　三年 [illegible]子

じつと掌を[illegible]御燈に沈默の祈[illegible]る時、私の心は[illegible]高く氣分[illegible]何處までも[illegible]行く。御先祖[illegible]父[illegible]母の位牌[illegible]牌が寂しく[illegible]燈さ[illegible]心に、映[illegible]のである。[illegible]か上げたこの御燈には本[illegible]の容と[illegible]られた多くの方々か[illegible]の御靈が入つて、ゆらいで居るのかしら、父母や弟[illegible]魂もこの光に合して居るのかしら、又ついこの間あの世へと旅立たれてしまつた父上の御靈も、矢張りと此御光の一つに入[illegible]導と、御[illegible]都[illegible]捧げる祈を、この御燈は、[illegible]、一つうなづかれて、静[illegible]聞きして下さる様に思はれてならぬ。心からの、[illegible]も、信者が御佛に深い祈を捧げ居る時、御佛の心がいつか信者の休内に入り、[illegible]御燈は、一段と煌きしめく有様は、さながら[illegible]風、吹きまくられる木の葉の如く、左右に[illegible]程動し、實に現世の有様とは思はれず祈る者は御佛の心を、他人に我が心として語る。その一種おそろしいとも、思はれるといふ事をいつか御地藏尊へ、お詣りに行つた時耳にしたおばえがある。又近所の方やお友逹にもおきゝした事がある。それを實際に見た人の御話も、一寸耳に入つた事もあつたからそれは誠であるらしい（此の稿續く）

3月23日

△府縣に小學校を設く（明治二）△獨軍長距離砲を以て巴里砲擊（大正七）△樞密院顧問官岡田良平逝去享年七十一（昭和九）

講談

戸隱奇譚 山の怪秘 (139)

丸山寬雄作　眞木浪畫

水上の亂鬪（一）

淸八は、お豐の手紙をふところに振込んで山谷堀から馬道へ出ると、淺草奥山まで尻を端折つて一散走りで來た

敎へられた人形芝居の前まで來て見ると、成程繪看板やら表の飾りつけ、鐘太鼓の鳴物入りで景氣をつけた小屋だつた。木戸番の下には珍らしい物見たさの江戸の町人が押すな押すなの大

盛況である

淸八は木戸番の若者に取次を頼んだが、札を賣るのに邪魔だとばかり劍もほろゝに斷はられてしまつた。

仕方な[illegible]に樂屋口へと廻つて行つた

「若しや、ヤマトさんと仰有る方がおいでになりませんか」

淸八は手紙を片手に言葉をかけた

「ヤマトさんか、居るには居るが手前一体、何の用で來たんだ」

異國人らしい奇妙な風体をした一人が訊ねた

「お豐さんといふ方から、この手紙を頼られて來たのです」

これを聞いたその樂屋番は俄に慌てたやうに揚幕の中へ飛込んで行つた

幕の中は、ごつた返し様に取散された樂屋である

「親方、こんな手紙を持つた男がやつて來ました。何だか胡亂な野郎で……」

と言つて樂屋番は羽尾太郎に手紙を差出した

かつて、上州松井田の宿で興行してゐたあの羽尾太郎――がつちりした体軀今しも舞臺へ出るのであらう、きらびやかな服裝をつけて座つてゐた

「ヤマトに用がある？どれ見せろ」

羽尾太郎は豪然と立ちはだかつたまゝ手紙を受取るや、さつと流して讀み始めた

と、見る見る、彼の顔色は驚異の色に充されてその手先きに顫さへ現れた

「おゝ、お豐さんといへばあの刈馬平七郎の……こりやかうしてゐる場合ではない。とにかくヤマトを呼べ」

と、太郎は奥へ向つて呶鳴つた

「御兄様、何事でございますか」

ヤマトは小さい揚幕を上げて、これも美しい舞臺姿で現れた

「おゝヤマト、これを見てくれ、お豐さんからの手紙だ、今使ひの者がこれを屆けて來たんだ」

羽尾太郎は、ヤマトの顔へ、その手紙を突きつけた

ヤマトも、お豐と聞いて二度びつくりした

「まあ、あのお豐さま、松井田の宿でお別れした、あの懷しい……」

流石に女である。ヤマトは懷かしの情に囚はれたものであらう、長い巻紙を手にのせてぢつと虚空を見詰めた

「恐悶々々しちや居られねえ、小屋の方はお前うまく穴を明けねえやうに、なんとかつないでおいてくれ、俺はこれから若い者を二三人連れて行つて、お豐さんを救ひ出して來る……」

羽尾太郎は手早く舞臺の扮裝を落すと、身輕な身体となつた。日本に長くゐるせいで、もう日本刀を使ふ術も會得したのだらう。自慢のものらしい大刀を一口、腰にたばさんだ

「おやヤマト、お前は危ないから待つてをれ」

羽尾太郎は一時小屋の方をヤマトに任せて、自分は手下二三人を引連れて淸八の案内で山谷堀へ向つた

二十三日（小名濱測候所調查）

日出 五、三八　月出 後八、五六
日沒 五、五〇　月沒 前六、三八
滿潮 前五、二五 後六、二五　干潮 前〇、〇五 後〇、〇五
春分後 一〇、二二

暦

舊二月十九日　新三月二十三日　戊戌　友引　危　胃宿

諸判定處當　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人 福分薄く事の半ばにして躓きを生じ易き日▲二黒の人 輕卒に走る時は目上の信用を失ひ失墜す▲三碧の人 他の力を頼まず自力を以て基礎を固むべし▲四綠の人 表面無事に見ゆるも内には變の潜み居る日▲五黄の人 急激の變化を生じ易き日細心注意を要す▲六白の人 健全なる歩調を取れば急がずとも達せる日▲七赤の人 脱線せざれば進むに不可なし驕しやは愼しめ▲八白の人 外に出て苦心するも効なし内に在るが安全▲九紫の人 調子を誤らぬ樣眞劍味を加へて働くべし

廣告

…試驗機完備…
發電機　マグネットチアージ　蓄電池　コイル　モルモーター　一般電機捲替並修理
久野電氣工業所
平町紺屋町五二　（呼電）三六六番

美味で評判の
イワキサロン
平町電三三二

天下一品マヅイ
素人料理おでん 榮ちゃん
花ノ里　新田町

株式賣買、債券取引
合資會社 三共商事
平町大町 電二六

前田醫院
院長 前田[illegible]
植田町電話[illegible]

學習型ランドセル　・九九錢
女學生用手提カバン
サイゴー印學生帽
・福助運動靴　景品付[illegible]
入學平品店内陳列
入學進級ノ御用ハ念入吟味セシ實用品揃ヒ
にツルヤ
平四　電一四〇

生徒募集
◎陸海軍人ヲ志願シタイ人
◎少年航空兵ニナリタイ人
◎鐵道員ニナリタイ人
◎遞信官吏ニナリタイ人
本校ニ學ンデ此等ニ合格シタル官ハ八澤山アリマス。
磐城青年學校　平町城山

株ト債券
株式賣買ノ忠實ナル御相談相手トシテ御利用下サイ。
尚御希望ノ方ニハ當店獨特ノ『罫線上ヨリ見タ東觀測』ヲ御送リシマス。是非一度御覽ヲ願マス。
株式債券現物賣買
丸井株式店
平町田町七三　電話四六番
水戸市[illegible]醬油一手御販賣イクシマス[illegible]
外務員募集

新入學生靴

中等學生用編上	¥	4.30ヨリ
女學生用靴	¥	4.00ヨリ
中等學生用（注文）	¥	6.00ヨリ
女學生用（注文）	¥	5.00ヨリ

他紳士型、青訓生用靴豐富取揃ヘテアリマス。
菊地靴鞄店
平四・電六五九

英和・和英辭典
國語・漢和辭典
各種豐富取揃へました。
國定敎科書
中等敎科書
全科參考書類
中等敎科書各科參考書
平一四　マルトモ　電話二二四・二三四
新學期の御用意は先づマルトモ書店から
小學生 カバン ¥.35より　ランドセル ¥1.70より
女學生手提カバン ¥.85より
磐城中學校指定背嚢あります。

石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
營業種目
◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
本店 水戸 縣下[illegible]　電話 六[illegible]（電話 五五番）
支店所在地
茨城縣土浦町（電話六五三）
常磐線關本驛前（電話八二四）
常磐線四倉驛前（電話平潟五四）
久慈濱支店（電話四八）
海上給油及油槽所―大津、平潟、小名濱、江名濱

洋服は高島屋
注文並既製品
高島屋洋服店
平町二丁目 電話三八六番

特製男女通學服
特價提供………
男子一年生用紺サージ三、九〇ヨリ　綿サージ一、六〇ヨリ　小倉同一、四五ヨリ
女子用サージ三、三〇ヨリ　綿サージ一、六五ヨリ　男女防水萬套一、三〇ヨリ
其他春物新荷豐富取揃

各種木製玩具　高級木馬　センタク板　紙器一式
東京式（機械函）（貼函）各種大量製作
（値段と美術と迅速も東京式）
佐藤木工所
平町十五丁目（共濟病院向）
電話三八一番（呼）　振替東京五七一六番
（紙器部鐵工部）

徒弟募集
挽物部 五名
大工部 五名
年齡十五、六歳の方　學力高等卒業程度の方
御希望の方は平町職業紹介所又は當工場へ御申込下さい。
ボール函の御用命は！
是非當工場紙器製作部へ……！

磐城共濟病院（福島縣平町）（電話六四一番）
内科　院長 醫學博士 石山謙一郎
小兒科　部長 岩手醫學士 平賀一忠　電話六四一番
産科　副院長 醫學博士 五十嵐雄二　電話三七〇番
婦人科
外科　部長 醫學士 大町久藏
耳鼻咽喉科
皮膚泌尿器科
花柳病科　部長 醫學士 前澤正　電話二七二番
X光線科　醫學博士 石山謙郎
物療科　技手 石山彪
衛生試驗所　獸醫 高後利雄
藥局　藥局長 吉本孝平
藥劑師
事務長 鈴木寶雄
◎毎日午前八時ヨリ
◎夜間診察開始）毎夜午後十時迄）
◎病室完備 入院隨意

尊き我神國の護りに 輝く少壯武人の玉碎
一白の春雪に地上を淨められたけふ 大平伍長の草野村葬盛儀

去月十五日滿洲輯安縣城西北七里の大荒溝に於て紅匪軍討伐中名譽の戰死を遂げた草野村大字下神谷字六十枚出身滿洲獨立守備隊第六大隊第十中隊附陸軍歩兵伍長大平正二(二三)君の村葬は今二十二日午後零時半より滿地の白雪淨らかに映發する同村小學校講堂に於て、軍隊關係各方面、各種團体代表者其他小學校兒童及村民等多數參列神佛兩式により執行、軍部其他多數の弔辭弔電に少壯武人の易簀を飾つた、うち鈴木代議士の弔辭(代讀)左の如し

弔辭

故陸軍歩兵伍長大平正二君の英靈に告く、惟ふに國家内外未曾有の非常時に際會し建國三千年來の光輝ある歴史を辱むることなく、我帝國をして九鼎大呂の重きに置かしめたるは君等忠勇なる將兵か身を鴻毛の輕きに比し帝國生命線の保護に任したる結果に外ならす、而して君は勇往敢爲毅然起つて匪賊を討伐中忽焉として戰線に玉碎し今や屍を馬革に包んで桑梓に還る、吁悲哉。然雖君國の爲に一身を捧け永く其名を竹帛に垂るゝは之れ武人最大の名譽にして、君亦之を本懷とし在天の雄魂永く安らかならんことを。玆に虔みて君の冥福を禱り弔辭となす

昭和十年三月二十二日

衆議院議員 鈴木辰三郎

。。。。。。教育部會代表參列 平第一篠山、同第二津田兩校長は郡教育部會を代表し今二十二日午後零時半より執行された草野村大平伍長の村葬並に同二時より行はれた齋藤要氏本葬に參列した

憂國慨世の熱情家 小林大佐時局講演會
今夕マルトモに開催

平町の土曜會及經國聯盟、三六倶樂部各支部合同主催に係る小林順一郎陸軍大佐の時局講演會は今二十二日午後六時半からマルトモホールに於て開催さるゝが、會費(茶菓料)は三十錢で會員外の聽講も差支ひ無いと因に同大佐は理論實際兩方面に於ける革新運動の指導者で曩年歐洲大戰當時は遣外武官として各方面に活躍し後佛蘭西軍團の參謀として極めて重要の位置に就いた經歷を有する憂國慨世の熱情家であると

市制委員會
平町で廿五日開催

平町の都計區域は磐島地方委員會に提案既報の如く咨申に決定したので町では二十五日午前十時から市制施行委員會を開き種々協議の上、同日午後から翌二十六日の二日間に亘り委員が各關係村へ出張交渉する事になつたと

一糸亂れざる統制と 近代的諸施設の完備
四十有二年の發達變遷を顧る 平消防組禮讚

組織以來玆に四十有二年、一糸亂れぬ統制と近代的施設の完璧を誇る平消防組は遂に全國十六組と共に燦たる表彰旗を獲得、これが授與式は既報の如く來る二十八日内相官邸に於て擧行される

明治九年始めて私設消防組が組織されたが組頭以下五十名にすぎず、同二十七年消防規則發布で同年六月二十二日組頭一、二部制となし、一部に小頭三、消防手五十名を配し玆に平消防組の組織を見、後戸口の增殖に伴ひ同三十九年十一月小頭三、消防手五十名を以て現在の三部制に至り、組頭、副組頭各一、小頭九、消防手百四十名の大世帶を成し

これに新鋭の自動車ポンプの五臺を筆頭に蒸汽一、腕用五、水管人車三〇、消防專用貯水池五、水道消火栓四一、火の見櫓八の諸設備によつてその萬全を期して居る、更に一昨年來同組の施設向上に目覺しく(毎月十日を幹部研究の十日會として机上演習をなす外、昨年十月は在軍分會長指導の下に歩兵操典教練を行ひ、半常備の創設、消防手帳の制定、機械器具の整備、醫分會員並に看護婦會員を以てする救護班の編成救護船常備(六艘)、破壞隊屋上制限勵行などにより各方面を完備し、昨年十二月からは愈々常備消防隊を結成して全國に範たる大平消防組の堂々たる陣容を以て

二倍を突破
平商の志願者數

今二十二日正午現在の平商入學願書受付數は定員約百十名に對し倍以上の二百二十七名で、百人中五一人强はふるひ落される譯であるなほ締切までには中一日あり豫想通りの數字を示し受驗者を保護者を戰かせるものと觀られる

新入學兒童の 体格檢査
三校共廿五日執行

平町の今年度入學兒童(第一)二百十八名(第二)百九十一名(第三)二百名合計六百九名は樂しい學校生活へ第一歩を踏み出す喜びを胸に描いて今からカバンや教科書を取揃へて勇み立つてゐるが、その身体檢査は各校共來る二十五日午前九時から正午迄行はれるから附添ひの父兄は就學通知書忘れずに登校してもらいたいと

濱崎氏退院
當分姨の湯で靜養

過般深夜綴の踏切に於ける自動車事故で危い一命を取止めた磐炭鑛業所副所長濱崎善三郎氏は其後磐炭病院に入院加療中であつたが經過非常に良好で愈々二十五日退院の上當分磐崎村大字上湯長谷の姨の湯で靜養

大野、大浦見舞金 豫想額を突破か
明後日頃送る見込

平町の大火見舞金は各區割當て募集中の處豫想五百圓を突破する見込みなので取纏めの上明後二十四日頃兩村へ分割送附する筈

盲院卒業式
今廿二日擧行

磐城訓盲院今年度卒業式は今二十二日午前十時から擧行した、新卒業生左の如し

(中等部)北郷德次郎 小池一雄 松宮武 乘本ヨシノ(別科)阿部萬七 坂本明 久田キヨ(初等部)佐藤正美 佐々木勝雄 高木太刀男 須賀夏吉 安田實 遠藤ハナヨ 木村モイ 篠原イチ

平町會

平町會は二十九日午後一時から左記諸件を附議

九年度事業繰越、九年並に十年度歳入出追加更生豫算、寄附採納、教員退職慰勞金給與

鎌田青年 除雪奉仕

地方稀有の積雪に小學生や通勤人の歩行困難を見越した平町鎌田青年分團では今早朝來團員が出動鎌田町より第三小學校に至る通稱中通の排雪奉仕をなし附近民から感謝されてゐる

花季を前に天候異變 實に廿三年目の大雪
積ること二三センチ五(七寸八分) 坪水量二三ミリ八(四斗三升五合)

暑い寒いの境目となつてゐる彼岸の中日の晩に、時節外れの白いものが夜をこめて降り積つたとは些か無軌道的な番狂はせの陽氣異變である。小名濱測候所では語る

從來低氣壓が日本海方面に在つた爲温暖續きであつたのが一昨日(二十日)來四國沖に小低氣壓が起りそれが漸次發達し、今朝八丈島附近に移動した影響で最積雪量は今朝十時の二三センチ五(七寸八分)坪當り融解水量二三ミリ八(四斗三升五合五四)に上つた

尚ほ遲そ雪の記錄では大正十二年四月六日と云ふのがあつたが、其時は僅か六センチ(一寸九分八)で地方の大雪としては一昨八年三月十一日の二二センチ五(七寸四分二五)で今回に及ばす、之の大雪は明治四十四年以來二十三年目の最高記錄を示したものである

殆ど被害無し 積雪の爲場所によつては自動車の交通さへ杜絕した處もある、鐵道方面では別に支障もなかつたが平局の電話線は湯本線が二本切斷されたきり他に異狀なく何れも間もなく復舊した

全國小學教員大會に 郡下四校長出席
廿七日提出議題を協議

第十二回全國小學校教員大會は五月二十三、四、五の三日間神戸市に於て開かれ兼ねて楠公千六百年祭が擧行されるが郡教員會よりは西山小名濱、吉田好間尋高、五十嵐草野、津田平第二各校長が出席することになつた、なほ右出席委員は來る二十七日平第二校に參集して提出議題を附議すると

起工以來順調に 豫期より早く着炭
期待さるゝ第二磐炭

新興の優良炭鑛として大に將來を期待されてゐる磐崎村大字上湯長谷字長倉の第二磐炭は前川坑長擔當の下に起工以來極めて順調に進工し着炭の日近きに在りと觀られて居たが東斜坑本線卸上層(地表より約三百尺)は果然昨二十一日着炭、更に同坑の主眼たる本層も亦來月上旬頃同樣着炭する見込なので來る山神祭には着炭祝をも併せ行はるる筈であると

良き程に 一內容を公開して 春の目覺めを味覺
情痴の投書(一二)(D)

談笑の座右窃かに鴆毒を置く幕末外交界の梟雄安藤閣老の覇業を語る新興大平町の住宅地お城山にいとも面妖な姉妹私娼の出現!それも布團着て寢たる姿のお城山の丘陵が、その昔夏井川の流心であつたのが、その後何かの作用で隆起したものであると云ふ地方考古學者の該博な考證から見るとさまで吃驚するには當らない時の流れに支配された一小發達變遷の餘興かも知れぬ

〇

ここで請け賣りの私娼談議も些か衒學り過ぎる嫌ひるが、丘頭の晩鐘餘韻嫋々たる頃、八重葎繁りに茂つて蒼鼠襲死に隱るる本丸のはとりを低徊する時、そこには築城術の最尖端を行つた守るに易く攻むるに難き平城華やかなりし頃の俤が油然として想起される、而も之に關聯して幕末の雰圍氣何となく匆忙多端な江戸時代と、その空氣も知らぬげに當時としては蓋しウルトラモダンたるを失はなかつた細緒の雪駄なんかをチヤラつかせたデカタンな旗本の二男などを對象として荐りに活躍した私娼群。大衆作家の所謂幕末秘史乃至情話とが展開される

〇

エロ今昔物語り、お城山の地方色には少々緣遠いが玆に江戸時代のストリートガールを語るなれば——吉原五町の不夜城に、春信、歌麿の浮世繪から拔け出た樣な絢爛艶冶な遊女の群が媚を湛へて客を引いてゐる時、江戸八百八町の宵々にまぎれて、脊褪め、爛れ、疲れ果てた顏に白粉を塗り赤い蹴出しを飜して鐚錢二三枚で春を賣る女の群が横行跳梁して居た——卽ち夜鷹の一種である

〇

夜鷹——言海を見ると(一)梟の類、林中に棲み、晝伏し夜出で寢鳥を驚かし捕へ食ふ、鳴きて怪をなすものを云ふ。怪鴟(二)江戸にて夜發の異名(四十八錢を四十八應に寄せる隱語と云ふ)とあるが、こゝで夜鷹と云ふのは鳥の類でも夜發の異名でも無いのである、夜鷹とは分り易く現代語で云へばストリートガール卽ち『街頭の娼婦』新聞用語に從へば『街の天女』の謂である

賣店氣乘薄
未だ出願皆無

町では花時の公園賣店を既報の如く決定したが現在の處一名の申込者がない氣乘薄で出揃ひを待ち二十八日午後一時から土木委員會を開き抽籤決定する

誕生貯金取扱開始

今回郵便貯金の普及奬勵の一方法として誕生記念貯金を取扱ふ事となつたが右は通常と据置の二種とし預入金額十錢以上任意で毎月一定の金額二圓、三圓、五圓、七圓、十圓、年限二年、三年、五年、十年と區別繼續して預入さるゝ向へは局員を派遣取扱はしむると

平の娘放火
懷郷から輕擧

栃木縣足利郡三和村松田機業安藤安雄方の工場裏から廿一日午前五時四十分頃發火したが雇人が發見大事に至らず消止めたが放火の疑ひがあるので足利署で嚴重取調べた結果同工場女工平町音吉二女山口てう(二五)假名—が[illegible]で放火した旨を自供した、てうは昨秋同工場に女工として住込んだが友達もなく故郷戀しく工場が燒ければ歸國が出來ると思ひ込み放火したものである

募集
記者 一名
中學卒業程度以上のもの。希望者履歷書送付あれ、面會日通知

。。。。。好間兒童放火公判傍聽 湯本町大字水野谷字龜之尾生れ住所不定無職志尾崎猛(三七)が出稼ぎの仕度を調ふる金品を得んと再三放火し目的を遂げなかつた事件は愈々明二十三日午前九時より平支部で中島裁判長係り、小林、香西兩判事陪席、淸田檢事關與安齊辯護士立會、好間尋高校卒業生約百名傍聽の下に公判開廷される

。。。。。庚申會慰靈會 平在住明治三十二年平小學校卒業生水谷泰助さん外四十餘名より成る庚申會では來る二十四日午後一時から九品寺に於て物故恩師並に級友の慰靈祭を執行する

齋藤要氏本葬 過日逝去した梁川尋高校同實科高女校長齋藤要氏(平町一丁目在籍、鹿島村出身)の本葬は今二十二日午後二時より平町胡摩澤長源寺に於て執行した

。。。。。珠算競技入賞兒 平第一校では去る十九日五年以上選拔兒童により珠算競技會を行つたが各學年の入賞者(五等迄)左の如し

五年—堤克忠 龜山正邦 小山田俊夫 小島弘文 遠藤好一 六年—市毛美德 會川和三郎 杉本友彌 佐々木高滋 富岡歳雄 高等科—先崎淸一 大城元吉 中島利夫 大森文勝 猪狩武司

。。。。。米山技手赴任 相馬郡駐在に轉任の郡駐在農業技術員米山新平氏は二十七日平發下り午前十一時七分で赴任する

。。。。。落磐で重傷死 赤井村字高萩礦島炭鑛運炭夫川西太次郎(四三)は去る二日午後二時頃作業中炭車の下敷となつて重傷、加療中だつたが二十一日夜遂に死亡した

。。。。。鼠賊に餘罪 內郷村大字高坂字台無職曲山金平(四二)は去る十九日磐炭住吉坑より銅線、鐵屑約百二十貫を竊取買却せんとした處を平署に檢擧され取調べの結果同人は前科三犯で昨年二月箕輪村大利地內二本松電氣の三千五百ボルト高壓線を切斷賣却した事を自白した

。。。。。亂暴男に罰金 雙葉郡大野村西野居住製板職工靜岡縣榛原郡生れ松浦良吉(三二)は去る一月十七日公休日を幸ひ同僚數名と製板所宿直室に會飲、酒その他升餘を平げた勢で午後八時頃內一名と立出で大野驛前食堂吞氣亭石澤ハル方に至り遊興中、給仕女宮野ミヨノの態度が氣に喰はぬと携帶した刄渡り六寸餘の匕首を突付け『渡り者の肚を知らねエか』と威喝し剩ひ傍にあつた盆栽を切倒し逃走、此程平區より銃砲火藥類取締規則違反で略式罰金二十圓に處された

。。。。。老ルンペン收容 昨二十一日夜遲く平署に醫料を哀願して來た男を調べると右は信夫郡淸水村生れ佐藤金右エ門(五四)で十數年前磐炭坑夫としてゐる中惡性の病氣に罹り妻子にも死別したので以來ルンペンとなり各地を放浪してゐたもので昨日朝久保町の木賃宿を出發一日がかりで辛じて同署に縋りついたものと判明、直に町役場に引渡し取り敢えず行路病舍に收容した

五千圓 三千圓 一等當籤十圓 勸業復興債券
有望番號無料鑑定
鑑定者 谷口武之 平町二ノ三十九
◎御遠慮なく種別回別番號御知らせ下されば直ちに誠意を以て調査致します。
◎但通信返答御希望の方は要切手六錢

貸切の御用命は是非〜
電話二一七番へ
親切叮嚀、流線形
安全第一、最優良車設備
サーヴイスモットー
貨物一般 平町四丁目 鈴木自動車部

一月星豆炭
一八キロ一袋
金八十錢
平驛前 阿部石炭商店 電話三七番

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院 電一七〇番
(入院隨意 病室完備)